

令和4年度 第1回教育講演会

6月2日(木)、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 研究企画部主任研究員北川貴章先生を講師としてお招きして、教育講演会を行いました。「生きて働く力を育む授業づくり～『教科等横断的』な視点とは～」と題して、ご講演をいただきました。

本校では、今年度より校内研修の研究主題を「学習や生活の場面で活用できる!生きて働く力を育む授業づくり～『教科等横断的』な視点を踏まえて～」として研修を進めていきます。

今回、北川先生のお話の中で、『教科等横断的』指導は『各教科等を合わせた』指導とイコールではないことを学習指導要領の内容から説明していただいた上で、実際の授業について、各教科間の関連について具体的に説明していただいたことでポイントを押さえることができました。また、キーワードとして「教師は説明する力が必要」という話がありました。授業づくりを行う上で、実態把握を的確に行い、児童生徒にどのような資質・能力を育みたいのか、各教科等と結びつけながら行うことが大切であり、それを明確に説明できることが求められているということを再度確認することができました。

講演を聞いて、「教科等横断的な学習について、授業例を挙げながら説明していただいたので、とても分かりやすかった。」「日々、指導していることを整理して説明できる能力を教師は求められているという話を聞いて身が引き締まった。」等、たくさんの感想が聞かれました。

今後、北川先生よりお話ししていただいたことを各校内研修グループで、理解を深め、授業づくりに生かしていきたいと思えます。



〈視聴覚会議室で講演される北川先生〉



〈自立活動室での様子〉

※各会場をリモートでつないで視聴しました。